



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/8 (月)	+ 400	▲ 6,600	▲ 6,200	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補充供給 200		日: 国内総生産 (GDP、4~6月改定値)
9/9 (火)	+ 1,000	▲ 7,000	▲ 6,000	流動性供給			
9/10 (水)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000	国庫短期債発行償還 (6M)			米: PPI (8月)
9/11 (木)	トン	▲ 30,000	▲ 30,000	国債発行 (5年)			米: CPI (8月) 欧: ECB政策金利発表、ラガルド総裁会見
9/12 (金)	トン	▲ 7,000	▲ 7,000	源泉税揚げ	貸出増加支援 ▲ 149,000		日: 鉱工業生産 (7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2兆5,700億円減少の521兆1,000億円から始まった。その後、国債買入オペや税・保険揚げ等の要因により増減し、5日は516兆3,000億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.460%~0.610%のレンジ、1M~3M物0.550%~0.700%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、8日に国内総生産 (GDP、4~6月改定値) の公表、海外では11日に米CPIの公表、ECB政策金利発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ~ 0.478
1M	0.54 ~ 0.68
2M	0.55 ~ 0.70
3M	0.58 ~ 0.70
6M	0.65 ~ 0.85

<レポ>

足許GCは週を通して+0.485%~+0.495%の狭いレンジで取引された。買い入れオペのあった3日や、短国の発行があった5日の取引も水準に変化は見られなかった。

SC取引は2年470~475回債、5年155~179回債、10年355~371、378~379回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約7,365億円で、週間償還額の1兆720億円を下回った。発行残高は先週末時点の25兆5,668億円から、9月4日時点で25兆6,549億円に増加した。発行市場は、卸売業、石油製品、通信業で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、先週に引き続き、a-1格相当の1か月物では政策金利に近い0.50%台前半での出合い、3か月物では0.60%台前半を中心に出合いが見られた。

来週の償還額は1兆3,335億円となっている。発行市場は、一部の企業で中間期末の有利子負債圧縮を踏まえた発行抑制が想定されるものの、5・10日に絡めた相応の発行が見込まれる。発行レートは、一部では早期利上げを織り込む動きがあり、引き続きレート水準を探る展開が見込まれるだろう。

<TDB>

5日の3M (1329回債) の入札は、最高落札利回り0.4638% (前回債0.4818%)、平均落札利回り0.4521% (前回債0.4742%) となった。来週の入札は9日に6M、12日に3Mが予定されている。